

平成19年8月策定 平成27年10月一部改定 令和元年10月一部改定

神奈川県教育委員会

かながわ教育ビジョン ～心ふれあう しなやかな 人づくり～ 概要

## 第1章 教育ビジョン策定の背景

### 1 社会状況の変化

- (1) 少子高齢化の進行と人口減少社会の到来
- (2) 国際化と情報化の進展
- (3) 産業・就業構造の変化
- (4) 地方分権改革の進展
- (5) 多様な主体との協働・連携の拡大

### 2 教育をめぐる現状と課題

#### (1) 子どもの思いと育ちの姿

**課題**：①子ども一人ひとりの思いと育ちの姿を、家庭、地域、学校などのまわりの大人がしっかりと見つめ、心の通い合う関係を築きながらかわっていくことが重要

②子ども一人ひとりが抱える、いじめをはじめとする様々な課題に対して、柔軟で迅速かつ適切に対応できる、組織的な体制づくりが必要

#### (2) 家庭の教育力の低下

**課題**：家庭での子育てや教育を改めて見つめ直し、次代を担う子どもを育てることの大切さを共有できる環境づくりが必要

#### (3) 地域の連帯感の希薄化

**課題**：学び合い、教え合うことから生まれる、協働と信頼に根ざした新しい地域の姿の創出が求められています。

#### (4) 様々なニーズへの対応が求められる学校

**課題**：教職員が子ども一人ひとりにしっかりと向き合える学校運営や、教職員同士が課題や目標などを共有し、個々の経験や持ち味を生かし合い、一体となって取り組むことのできる、組織力の高い学校づくりを進めていくことが必要

#### (5) 生涯を通じた「学び」への対応

**課題**：働く人や高齢者など、だれもがどこの地域でも気軽に学び続けることや、学び直しのできる場や機会をつくることが必要

### 3 人づくりにおいて踏まえるべき観点

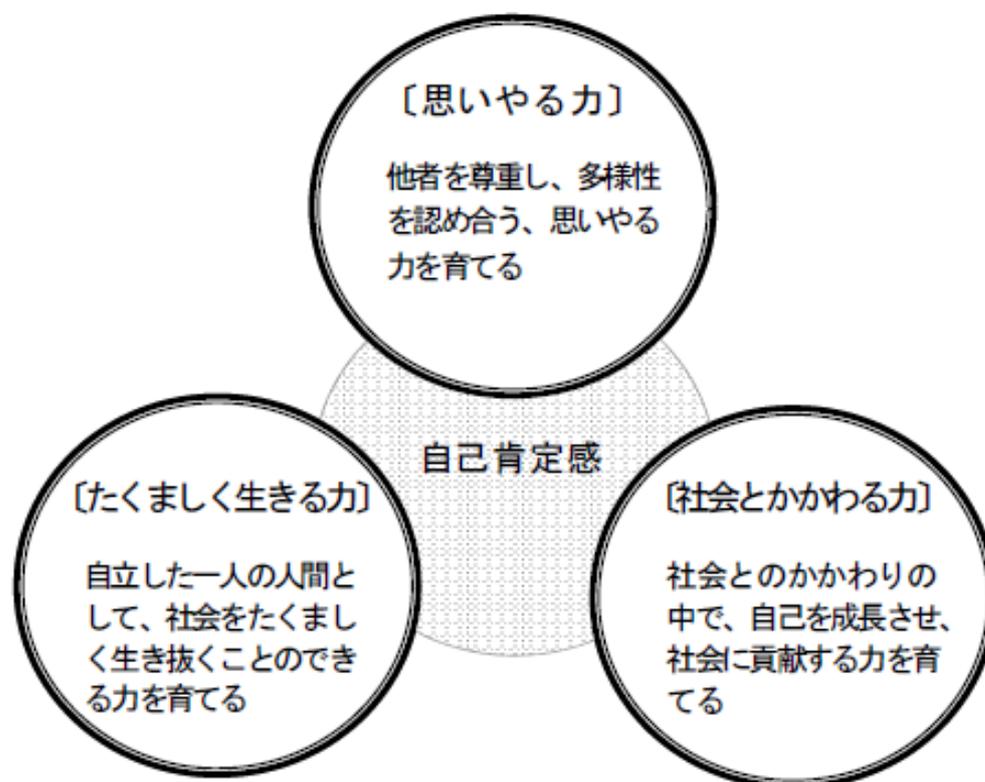
- (1) 不易と流行を踏まえた人づくり
- (2) 世代を超え、循環する人づくり
- (3) 協働・連携による人づくり

## 第2章 基本理念・教育目標

### 1 基本理念

「未来を拓ひらく・創る・生きる 人間力あふれる かながわの人づくり」

### 2 教育目標（めざすべき人間力像）



### 3 かながわらしい教育に向けて

#### (1) 「ふれあい教育」の成果と課題

- 人や自然とのふれあいによる体験的な活動を重視した「ふれあい教育」は、現在に至る、かながわの教育の根幹
- **成果**：「ふれあい教育」を基にした様々な体験活動を通じて、子どもたちが人と人とのつながりや、自然とのふれあいの大切さに気づくことや、学ぶ者と教える者とが、世代や立場を超えて学び合うという考え方が浸透

- **課題**：①家庭や学校、地域などにおいて、広く展開されていたものが、時間の経過とともに、次第に学校教育が中心的な場となり、子どもたちの社会性などを着実に育成していくような、成長に応じた学習活動のつながりの不足
  - ②現在、不登校やいじめなどの件数は減らず、人格や生命の尊厳を傷つける程までに深刻化しているものもあること
- (2) 今こそ大事な心ふれあう経験
- 人は、元来、自分以外の存在と「ふれあう」ことを通して、自分の価値や役割に気づき、自我同一性（アイデンティティ）を確立
  - 「ふれあい教育」は、かながわの教育ビジョンの中でも、継承していくべき不易なもの
- (3) よりよく生きるための「行動の知」を
- 「行動の知」：  
学習や体験によって蓄えられた知を、より一層、人や社会との間で双方向的に機能させ、自らがよりよく生きるための行動を支えるよう再構築された知
- (4) 「心ふれあう しなやかな 人づくり」へ
- 次代を担う子どもたちに、積極的に人や社会とかかわり、「思いやる心とたくましさ」をもったしなやかな人に育ててほしいという願い

### 第3章 人づくりの視点

#### 1 「つむぐ おりなす」協働による取組みの推進

次代を担う子どもたち一人ひとりの個性やよさを「つむぐ」ように大切に育てるため、まわりの大人たちが様々に「おりなす」ようにかかわり合っていこうという願い

#### 2 人の発達段階を通じた各主体のかかわり

人の成長・発達に即して、必要な資質・能力や「人間力」を獲得していくためには、様々な教育の主体の役割が重要

## 生涯を通じた人づくりにおけるそれぞれの段階と目標

本表は、人生の上で大きな節目や転機となる出来事を見すえながら、人の一生を次のような年齢区分により、4つの段階に分け、それぞれの人づくりの目標を整理しました。ただし、この整理はあくまでも目安であって、実際には様々なあり方や生き方があり、それぞれに十分尊重されなければなりません。

年 齢	教育ビジョンにおける人づくりの段階と目標	節目や転機となる出来事
誕 生 ↓ 概ね 6 歳頃	<b>1 健全な心身と生活の基礎を培う段階</b> (乳・幼児期) 親への信頼感を深めながら、家庭を中心に、基本的な生活習慣や態度を身に付けるとともに、集団での遊びや運動などの体験を通じて、健全な心身の基礎を培う。	
↓ 概ね 18～22 歳頃	<b>2 自分らしさを探求する段階</b> (児童・青年期) それぞれの学校段階において、確かな学力を身に付けるとともに、様々な体験や経験を通じて生き方や進路を考え、自分らしさを探求し、心身ともに健康で、豊かな人間性や社会性を培う。 ・この段階は、児童期と青年期に区分して整理	
↓ 概ね 65 歳頃	<b>3 社会的・経済的に自立する段階</b> (成人期) 職業生活への円滑な移行と社会的・経済的な自立をめざし、自覚と責任ある行動力や社会に貢献する力を身に付ける。	
↓	<b>4 豊かな人生を探求する円熟の段階</b> (円熟期) 学び直しや新たな学びに挑戦する意欲や生きがいをもち、自分づくりに取り組むとともに、次世代の育成や地域での社会貢献に努める。	



## 人づくりをめぐる状況

### 児童

- 就学前の育ちに起因し、学校生活や授業に上手く適応できない子どもが増えていること
- 基本的な生活習慣が身に付いていなかったり、人とのコミュニケーションが上手くとれない、好ましい人間関係が築けない子どもが以前より多く見受けられること

### 家庭生活

- 家族の絆や家庭での安心感が子どもの成長に大きく作用していること

### 学校

- たくましく生きるための健康や体力、確かな学力や豊かな心を、発達に応じて着実に身に付けること
- 核家族化や情報化などが進む中で低下が懸念されている、「いのちの大切さ」や「生命の尊厳」についての理解を深める機会を充実すること
- 多様な教育的ニーズに対応できる環境を充実させていくこと
- 発達障害などにより支援を必要とする子どもに対して、家庭や医療機関などと連携した適切で迅速な対応を図ること
- 家庭や地域の実態を踏まえて、それぞれの学校が設定した教育目標の達成をめざして取り組む必要があること

### 地域

- 子ども一人ひとりの様々な悩みや不安への相談に適切かつ迅速に対応するなど、多くの人々が互いをよく理解し合いながら、共に助け合い、支え合って人づくりを進めること
- 人や自然とかかわる力の育成に向け、体験活動や異年齢交流などの機会をつくること
- 学校と協力し、職業観・勤労観の育成に向けた体験学習の場や機会をつくること



## 各主体のそれぞれの役割と具体的な取組みの方向性

この時期の人づくりは、学校のみならず、家庭や地域がそれぞれの役割を自覚しながら、連携・協力し合って取り組んでいくことが非常に重要になります。また、子ども自身が意欲を持続し、目標をもって主体的に学んだり、体験を通じて自己を形成したりすることができるような、生き方・進路を考える教育の場や機会も大切です。そこで、この時期に教育の主体がはたらきかけることが望ましいこととして、家庭・地域・企業については成長・発達に応じた教育的な支援のあり方を中心にまとめ、学校については学校教育全体としての取組みの視点から、さらに市町村・県については総合的なかかわりの視点からそれぞれまとめています。

## 家庭

## 自己形成や進路実現に向けた的確な支援

- 食事や睡眠など規則正しい生活習慣を身に付け、また正しいしつけを行う。
- 日常的な生活体験の機会を増やし、親子のふれあいを大切にする。
- 家庭での目標や役割を決め、家族としての自覚と責任を育てる。
- 学校生活や学習について、親子で話し合う機会を積極的につくる。
- 親同士や地域の人々とのつながりや交流の機会を大切にする。
- あいさつなどの声かけや見守りを通して、子どもの安全確保に努める。
- スポーツや文化芸術など様々な活動にふれる機会をつくる。

## 学校

## 学校間・校種間の連携・協力の促進と、家庭・地域・企業などと一体となった学校づくり

- 幼児期の教育・保育から小学校や特別支援学校での教育への適応を図る。
- 学校間・校種間の連携\*・協力を促進し、確かな学力・豊かな心・健やかな体などの生きる力\*の育成に取り組む。
- 学校教育全般を通じて、学習意欲や主体的に学ぶ姿勢などの学ぶ力を育てる。
- 子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援教育\*に取り組む。
- 生きることや働くことなど人生にかかわる教育（キャリア教育\*）を推進する。
- すべての人が人として認め合うことを大切にする態度をしっかりとほぐくむ。
- 道徳教育を中心に学校教育全体で、友人を思いやる心や様々な人々と共生できる豊かな心、公共心や規範意識など人々とかわる力などの育成に努める。
- P T Aなどを仲立ちとして、家庭や地域などと協力し、生活習慣や学習習慣をしっかりとほぐくむ。
- 乳幼児とのふれあい体験や高齢者との交流体験などを通じて、「いのちの大切さ」や「生命の尊厳」についての理解を、家庭・地域・企業などと一体となって深める。
- スポーツや文化芸術など様々な活動への積極的な参加を促す。



## 地域

## 異世代間交流や体験学習の場・機会の提供と人的支援

- 子育て・教育を縁としたつながりや交流がもてるよう、家庭に対して働きかける。
- スポーツ活動など、豊かなくらしの創造や健康の保持増進につながる活動の場・機会をつくる。
- 学校の教育活動などの取組みに協力して、ボランティア活動の受け入れや様々な体験の場の提供を行い、地域の中の子どもを豊かに育てる。
- 家庭や学校と協力して、あいさつなどの声かけや見守りを通して、子どもが安全に過ごし、安心できる居場所づくりに努める。
- 子どもから大人まで、様々な体験活動を通して、異世代交流ができる場や機会をつくる。
- 地域での様々な活動を通して、相互に基本的なルールやマナーなどを身に付けることができるように努める。
- 地域の活動や交流を継続・発展させる次代を担う地域リーダーを育てる。

## 企業

### 職業観や社会性の育成への場・機会の提供と人的支援

- 地域の産業学習や仕事調べなど、学校の教育活動や学習者の主体的な学習について理解と協力を努める。
- 企業の豊富で多彩な人材を、学校や地域などの要請で外部講師として派遣する。
- 職場見学や訪問などを通して、望ましい職業観や勤労観を育成できるよう、未来の職業人の育成に向けて教育の場として企業の門戸を開く。
- 学校などと連携・協力して、生きることや働くことの大切さを学び、考えるキャリア教育を推進する。
- 従業員が、家庭での子育て・教育や、地域での活動に取り組むことができるように、職場での諸制度の整備や環境づくりに努める。
- 教育機関との連携・協力により、県内の産業や職業に対する理解を深め、働くことに生きがいや誇りがもてるような取組みを推進する。

## 市町村

### 地域に根ざした信頼と協働による教育環境づくり

- 「確かな学力」の向上のため、校種間の接続や学びの系統性・継続性を重視し、個に応じたきめ細かな指導の充実と教育の質的向上を図る。
- 各学校が内外の人や関係機関などと連携し、一人ひとりのニーズに応じた支援体制の構築と人材の育成に努めるよう支援する。
- 生きることや働くことなど人生にかかわる教育（キャリア教育）を推進する。
- 授業研究\*をはじめ、諸課題の解決に向けて、各学校で全教職員が組織的に取り組む校内研修を強化するための支援を行う。
- 学校教育や社会教育などが抱える様々な教育課題に対して、家庭・地域・企業や県などと協力し、一体となって解決に向けて取り組む。
- 子どもの学校生活や学習への円滑な適応を図るため、幼稚園・保育所・小学校・特別支援学校、小学校と中学校など、学校間や校種間などの連携を促進する。
- 子育て・教育に関する支援ネットワークの整備や取組みの促進に努める。
- 県などと協力しながら、地域の学校や保育所、公民館などを中心に、家庭や地域との連携を促進するしくみづくりや人材の育成に努める。
- 人づくりを進める教育環境の整備・充実に努める。

## 県

### 様々な教育の主体との協働・連携による信頼あふれる教育の推進と教育環境の整備

- 個性や文化の違い、障害の有無にかかわらず、多様な教育的ニーズに応え、子ども一人ひとりを大切にはぐくむ教育を推進する。
- 市町村や教育機関などと協働して、かながわ独自の学習状況調査を実施し、子どもの主体的な学びと意欲を高めるとともに、指導者の授業改善などを支援する。
- ボランティア活動など、様々な体験活動を通して、豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育を推進する。
- 子ども理解や、学習者にとってわかりやすい授業づくりに向けて、実践的な指導技術に関する教職員の研修機会を充実する。
- 指導力の高い教職員の養成・確保・育成を強化して取り組む。
- 教職員の協働と組織の力を発揮できる学校体制の構築に取り組む。
- 時代や社会に対応できる豊かな知性を身に付ける教育を推進する。
- 家庭や地域、学校などが連携して、子どもの運動やスポーツ活動の推進に努める。
- 外部評価など学校運営の改善に生かせる学校の機能向上を図るしくみづくりに取り組む。
- かながわの人づくりを支える教育環境の整備・充実に努める。



## 2 自分らしさを探求する段階（児童・青年期）

### 青年期 [概ね 12 歳頃から 18~22 歳頃まで]

#### 大切にしたい育ちの姿

##### 自分らしさを探求する時期です

- 自我の発達がめざましく、自主性や独立性が高まるとともに、自己肯定感や自己肯定感を確立する。
- 学び方やものの見方・考え方を身に付け、進路や見つけ、行動力をつける。
- 豊富な知識や技能を身に付ける。

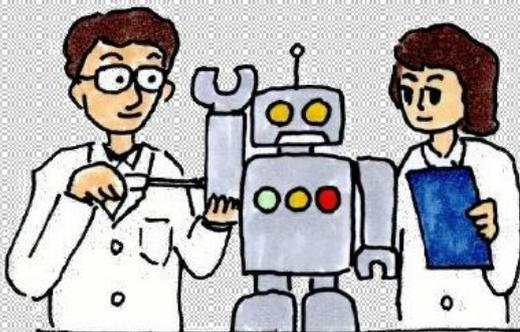


##### 発展的な知識・技能を身に付ける時期です

- 学校生活を中心に、知的好奇心を向上させながら、活動範囲を広げ、発達や学年段階に即して、次第に高度な学習内容に取り組むようになる。
- 中学校期以降、進学や就職などを通して、人々や社会との交流が広がる中で、自己形成や価値観の形成をはじめ、社会的な知識・技能の習得などを深めている。

##### 家庭など将来の生活を考える時期です

- 将来、家庭を築き、親と子としての役割や責任について、考える。



##### 豊かな人間性・社会性を向上させる時期です

- 様々な体験活動から、ボランティア活動にも意欲をもち、社会に貢献しようとする前向きに行動している。

## 人づくりをめぐる状況

### 青年

- 小学校から中学校へなど、校種が変わり、学校生活や授業に上手く適応できない人が増えていること
- 基本的な生活習慣や人とのコミュニケーションが上手くとれない、好ましい人間関係が築けない人が以前より多く見受けられること
- 自己を見つめ適切に理解し、自らの夢や目標に向かってチャレンジする意欲や態度を身に付ける必要があること
- 人生の選択時期を迎えて、自らの適性を十分認識し、生き方・進路を考え、選択し、自己決定する力を身に付ける必要があること
- ボランティア活動など様々な体験を通して、豊かな人間性や社会性をはぐくむことが求められていること

### 家庭生活

- 家族の絆や家庭での安心感が、成長に大きく作用していること



### 学校

- たくましく生きるための健康や体力、確かな学力や豊かな心を、発達に応じて着実に身に付けること
- 核家族化や情報化などが進む中で低下が懸念されている、「いのちの大切さ」や「生命の尊厳」についての理解を深める機会を充実すること
- 多様な教育的ニーズに対応できる環境を充実していく必要があること
- 発達障害などにより支援を必要とする人に対して、家庭や医療機関などと連携した適切で迅速な対応を図ること
- 家庭や地域の実態を踏まえて、それぞれの学校が設定した教育目標の達成をめざして取り組む必要があること

### 地域

- 一人ひとりの様々な悩みや不安への相談に適切かつ迅速に対応するなど、多くの人々が互いをよく理解し合いながら、共に助け合い、支え合って人づくりを進めること
- 人や自然とかかわる力の育成に向け、体験活動や異年齢交流などの機会をつくること
- 学校と協力し、職業観・勤労観の育成に向けた体験学習の場や機会を充実させること

## 各主体のそれぞれの役割と具体的な取組みの方向性

この時期の人づくりは、学校のみならず、家庭や地域がそれぞれの役割を自覚しながら、連携・協力し合って取り組んでいくことが非常に重要になります。また、子ども自身が意欲を持続し、目標をもって主体的に学んだり、体験を通じて自己を形成したりすることができるような、生き方・進路を考える教育の場や機会も大切です。そこで、この時期に教育の主体がはたらきかけることが望ましいこととして、家庭・地域・企業については成長・発達に応じた教育的な支援のあり方を中心にまとめ、学校については学校教育全体としての取組みの視点から、さらに市町村・県については総合的なかかわりの視点からそれぞれまとめています。

## 家庭

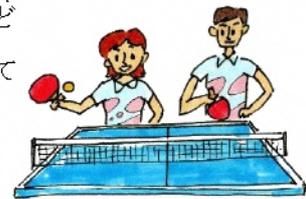
## 自己形成や進路実現に向けた的確な支援

- 日常的な生活体験の機会を増やし、親子のふれあいを大切にする。
- 学習や進路について親子で話し合う機会を積極的につくる。
- 親同士や地域の人々とのつながりや交流の機会を大切にする。
- 自ら選択して決め、結果に対して責任がとれるよう、よき社会人の先輩として、的確なアドバイスをしたり、相談にのったりする。
- 社会的・経済的な自立をめざして、支え合い、応援する。

## 学校

## 学校間・校種間の連携・協力の促進と、家庭・地域・企業など一体となった学校づくり

- 学校間・校種間の連携・協力を促進し、確かな学力・豊かな心・健やかな体などの生きる力の育成に取り組む。
- 学校教育全般を通じて、学習意欲や主体的に学ぶ姿勢などの学ぶ力を育てる。
- 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援教育に取り組む。
- 地域での貢献活動やボランティア活動、職場体験などの体験活動を通して、生きることや働くことなど人生にかかわる教育（キャリア教育）を推進する。
- 進学や就職など生徒個々の多様な進路目標を実現するため、学習活動や進路指導の充実に取り組む。
- すべての人が人として認め合うことを大切にする態度をしっかりとほぐくむ。
- 道徳教育を中心に学校教育全体で、友人を思いやる心や様々な人々と共生できる豊かな心、公共心や規範意識など人々とかかわる力などの育成に努める。
- PTAなどを仲立ちとして、家庭や地域などと協力して健全育成に努める。
- 乳幼児とのふれあい体験や高齢者との交流体験などを通じて、「いのちの大切さ」や「生命の尊厳」についての理解を、家庭・地域・企業など一体となって深める。
- スポーツや文化芸術など様々な活動への積極的な参加を促す。



## 地域

## 異世代間交流や体験学習の場・機会の提供と人的支援

- 教育を縁としたつながりや交流がもてるよう、家庭に対して働きかける。
- スポーツ活動など、豊かなくらしの創造や健康の保持増進につながる活動の場・機会をつくる。
- 学校の教育活動などの取組みに協力して、ボランティア活動の受け入れや様々な体験の場の提供を行い、地域の中で豊かに育てる。
- 家庭や学校と協力して、あいさつなどの声かけや見守りを通して、安全に過ごし、安心できる居場所づくりや、親のコミュニティの場づくりに努める。
- 子どもから大人まで、様々な体験活動を通して、異世代交流ができる場や機会をつくる。
- 地域での様々な活動を通して、相互に基本的なルールやマナーなどを身に付けることができるように努める。
- 地域の活動や交流を継続・発展させる次代を担う地域リーダーを育てる。

## 企業

### 職業観や社会性の育成への場・機会の提供と人的支援

- 地域の産業学習や仕事調べなど、学校の教育活動や学習者の主体的な学習について理解と協力に努める。
- 企業の豊富で多彩な人材を、学校や地域などの要請で外部講師として派遣する。
- 職場体験学習やインターンシップなどを通じて、自己理解や人間関係の大切さを知り、望ましい職業観や勤労観を育成できるよう、未来の職業人の育成に向けて、教育の場として企業に門戸を開く。
- 若者や働くことの大切さを学び、考える、キャリア教育を推進するとともに、働く意欲のあるすべての若者が活躍できる雇用環境づくりに努める。
- 従業員が、家庭での子育て・教育や、地域での活動に取り組むことができるように、職場での諸制度の整備や環境づくりに努める。
- 教育機関連携・協力のよき取組を推進する。理解を深め、働くことに生きがいや誇りをもたらすような取組を推進する。

## 市町村

### 地域に根ざした信頼と協働による教育環境づくり

- 「確かな学力」の向上のため、校種間の接続や学びの系統性・継続性を重視し、個に応じたきめ細かな指導の充実と教育の質的向上を図る。
- 各学校が内外の人材関係など連携し、一人ひとりのニーズに応じた支援体制の構築と人材の育成に努めるよう支援する。
- 生きることや働くことなど人生にかかわる教育（キャリア教育）を推進する。
- 授業研究をはじめ、諸課題の解決に向けて、各学校で全教職員が組織的に取り組む校内研修を強化するための支援を行う。
- 学校教育や社会教育などが抱える様々な教育課題に対して、家庭・地域・企業や県など協力し、一体となって解決に向けて取り組む。
- 学校や生活や学習への円滑な適応を図るため、小学校・中学校・特別支援学校や、中学校と高校など、学校間や校種間の連携を促進する。
- 教育に関する支援ネットワークの整備や取組みの促進に努める。
- 県などと協力しながら、地域の学校や保育所、公民館などを中心に、家庭や地域との連携を促進するしくみづくりや人材の育成に努める。
- 人づくりを進める教育環境の整備・充実に努める。

## 県

### 様々な教育の主体との協働・連携による信頼あふれる教育の推進と教育環境の整備

- 個性や文化の違い、障害の有無にかかわらず、多様な教育的ニーズに応じた支援体制の構築と人材の育成に努め、一人ひとりを大切にはぐくむ教育を推進する。
- 市町村や教育機関などと協働して、かながわ独自の学習状況調査を実施し、学習者の主体的な学びと意欲を高めるとともに、指導者の授業改善などを支援する。
- インターンシップなどの体験を通じて、生きることや働くことなど人生にかかわる教育（キャリア教育）を推進する。
- 「確かな学力」の向上など、教育の質的向上を図る。
- 地域貢献活動やボランティア活動など、体験活動を通して、豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育を推進する。
- 授業研究をはじめ、諸課題の解決に向けて、各学校で全教職員が組織的に取り組む校内研修を強化するための支援を行う。
- 生徒理解や、学習者にとってわかりやすい授業づくりに努める。
- 指導力の高い教職員の養成・確保・育成を強化して取り組む。
- 教職員の協働と組織の力を発揮できる学校体制の構築に取り組む。
- 時代や社会に対応できる豊かな知性を身に付ける教育を推進する。
- 家庭や地域、学校などが連携して、運動やスポーツ活動の推進に努める。
- 外部評価など学校運営の改善に生かせる学校の機能向上を図るしくみづくりに取り組む。
- かながわの人づくりを支える教育環境の整備・充実に努める。



## 第4章 展開の方向

### <基本方針1>

かながわの教育力を生かした生涯にわたる自分づくりの取組を進めます

#### ◇主体的に学び行動する力を身に付ける自分づくりの取組

- ・ かながわの豊かな学びの場や機会を生かした自分づくりの推進
- ・ 「自ら学ぶ力」を育み高める場や機会の充実
- ・ 社会生活の基盤としてのことばの力を育む教育の推進（読書活動の推進）
- ・ 安全に関する教育の推進や防災教育の推進

#### ◇社会的・職業的な自立をめざす自分づくりの取組

- ・ 自立した自分づくりを進める機会の充実
- ・ 生き方や社会を学ぶ教育の充実（キャリア教育、シチズンシップ教育の充実）
- ・ 人権教育と人権啓発の推進

#### ◇未来社会の創造に参画・協働できる自分づくりの取組

- ・ 地域貢献活動・ボランティア活動の充実
- ・ 多様な主体による協働の推進

### <基本方針2>

新たな教育コミュニティを創造し、活力ある地域づくりを進めます

#### ◇個人や社会の多様性を尊重し、生涯学習社会を支える地域の教育力向上の取組

- ・ 地域の教育コミュニティづくりの推進
- ・ 生涯学習の環境整備の充実
- ・ 青少年の多様な体験活動の促進

#### ◇参画・協働による活力ある新たな教育コミュニティの創出

- ・ コミュニティ・スクール\*の普及と充実
- ・ 生涯学習の深化と成果を活用する場づくり

#### ◇かながわの伝統文化の継承と芸術・スポーツによる地域の振興

- ・ 伝統的な文化芸術の振興
- ・ 文化遺産の保存と活用
- ・ 「鎌倉」の世界遺産登録の推進と魅力発信
- ・ 子どもの文化芸術活動の充実

- ・ 学校の部活動の活性化
- ・ 子どもの遊び・スポーツ活動の推進
- ・ 子どもの未病\*対策（体力向上と運動習慣の確立、生活習慣の改善）
- ・ スポーツ活動の機会の提供と多様な場づくり
- ・ スポーツ活動を支えるしくみづくり
- ・ 競技力向上のためのしくみづくり
- ・ 「かながわパラスポーツ」の普及

### <基本方針3>

少子化などに対応した家庭での子育て・教育を支える社会づくり

- ◇現代社会に求められる子育て・家庭教育への理解深化
  - ・ 家庭、地域、事業者、NPO、行政などの連携による子育て支援
  - ・ 地域における多様な子育て支援の充実
  - ・ 青少年が健全に育つ環境の整備
  - ・ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の実現
  - ・ 犯罪から子どもを守る対策の強化
- ◇地域との連携による子どもの社会的な経験の機会の充実
  - ・ 子どもの社会的な経験の機会づくり
  - ・ 子どもの放課後などにおける育ちの場の提供
- ◇家庭から学校・社会への円滑な接続・連携を図る教育的な支援
  - ・ 相談体制や支援の充実
  - ・ 待機児童対策の推進
  - ・ 高校生などへの就学支援の充実

### <基本方針4>

子ども一人ひとりの個性と能力を大切にし、共に成長する場としての学校づくり

- ◇学ぶ楽しさやわかる喜びを実感できる授業の実践と、個に応じた支援を大切にせる学校教育
  - ・ 確かな学力向上の推進
  - ・ これからの社会に応じた専門教育の推進
  - ・ 小・中・高等学校における支援教育の充実
  - ・ 特別支援学校における進路指導と専門的な教育などの充実
  - ・ いじめ・暴力行為対策の推進と不登校への対応

- ・ 教育相談体制の充実
  - ・ 道徳教育の取組の推進
  - ・ 食育・健康教育の充実
  - ・ 総合的な環境教育の推進
  - ・ かながわの魅力に基づく教育の推進（郷土史学習や歴史教育などの推進）
- ◇信頼と期待に応える主体的な学校運営
- ・ 信頼あふれる開かれた学校づくりの推進
  - ・ 高校の魅力と教育力向上の推進
  - ・ 特別支援学校の整備
  - ・ 小中一貫教育を行う学校の導入に向けた取組の推進
  - ・ 公立高校と私立高校による協調事業の推進
  - ・ 私立学校への支援の充実
- ◇子どもの人格形成を図る教育の質の向上を担う指導力のある教職員の確保と育成
- ・ 多様で優秀な教職員の確保と指導力の高い教職員の育成

#### <基本方針5>

生涯にわたる自分づくりを支援する地域・家庭・学校をつなぐ教育環境づくり

- ◇社会情勢の変化や科学技術の進歩に伴う教育や、インクルーシブ教育の推進に向けた環境整備
- ・ グローバル化に対応した教育の推進
  - ・ 科学技術・情報通信技術の進展に対応した教育の推進
  - ・ インクルーシブ教育の推進
  - ・ 外国籍県民のくらしやすい環境づくりに向けた教育の推進
- ◇生涯にわたる自分づくりを支援する教育ネットワークの構築
- ・ 県立社会教育施設などの生涯学習機能の充実
  - ・ 生涯学習の情報提供とネットワークづくり
  - ・ 県と企業、大学などとの連携の推進
- ◇教育行政に係る施策・事業の計画的な実施と、適切で的確な支援
- ・ 安全で快適な教育環境の整備
  - ・ かながわ教育ビジョンの着実な推進
  - ・ かながわの教育を考える機会の充実
  - ・ 外部専門家等による点検・評価等を活用した教育施策の推進

## 第5章 重点的な取組

### I 生涯学習社会における人づくり

すべての人が「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会とかかわる力」を身に付けることができるよう、自分づくりへの支援の充実に取り組みます。

### II 共生社会づくりにかかわる人づくり

共生社会づくりにかかわり、すべての人が多様なあり方を認め合い、尊重し、支え合い、参加できるようにするための教育や環境づくりを進めます。

### III 学びを通じた地域の教育力の向上

地域力を生かしたコミュニティ・スクールの普及・充実や、活力あるコミュニティづくりを進め、地域の教育力を高めます。

### IV 子育て・家庭教育への支援

生涯にわたる自分づくりの基盤となる子育て・家庭教育の役割を大切に、地域・学校など社会全体で、子育て・家庭教育を支援する取組みを進めます。

### V 学び高め合う学校教育

生涯にわたる学習の基盤が培われるよう、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランス良く育むため、教育課程や学習活動の充実に取り組みます。

### VI 意欲と指導力のある教職員の確保・育成と活力と魅力にあふれた学校づくり

教育の質を高め、県民の信頼を確立するため、優秀な人材の確保と指導力の高い教職員の育成や、社会の変化に対応した活力と魅力にあふれた学校づくりを推進します。

### VII 県立学校の教育環境の改善

安全・安心で、質の高い教育を支える県立学校の環境整備を進めます。その際に、生涯学習の場や地域のコミュニティの場としての環境整備にも取り組みます。

### VIII 文化芸術・スポーツの振興

かながわの魅力や地域資源を生かし、自分づくりを支える取組を進め、かながわの文化芸術・スポーツの振興につなげます。

#### \* 出典

「かながわ教育ビジョン」 神奈川県教育委員会

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/u5t/cnt/f4816/p332573.html>